

令和7年度安城市立二本木小学校国際理解・多文化共生教育全体計画

国際理解・多文化共生教育の全体計画・学年別指導の重点

校訓	「仲よく」～みんな仲よく元気で伸びていく子～
学校教育目標	描こう 自分の未来 創ろう みんなの学校

〈多文化共生を目指す学校づくり〉

国際社会が持続可能な社会を目指すために定めた「持続可能な開発目標(SDGs)」、およびその達成のために解決しなければならない課題に関心をもち、自分たちの生活を見直しながら、課題の解決に向けて自分たちができることを考える児童の育成を図る。

〈国際理解・多文化共生教育の目標〉

・自他文化の理解

自国や他国の文化・価値観を尊重し、多様性を理解する心情や態度を育てる。

・基本的人権の尊重

相手の立場や考えを認め、大切にすることを育てる。

・コミュニケーション能力の育成

自分の考えや思いを自分らしく表現できる能力を育成する。

〈児童の実態〉

多様な国籍・文化・環境の児童
外国にルーツをもつ児童が多数在籍している
(全体の1/7程度)

〈地域の実態〉

外国人集住地区と昔からの地区との隔たりが感じられる

学年別目標と指導の重点

1・2年	3・4年	5・6年
・自国と他国では、身近な生活の様子が違うことを知る。 ・誰とでも仲良く助け合って活動する。 ・自分の考えを相手に伝えようとする。	・自国と他国の文化や習慣の違いに興味をもつことができる。 ・相手の気持ちを尊重して行動することができる。 ・自分の考えを相手に分かるように伝えようとする。	・自国と他国の関わりを知り、互いの文化や歴史、習慣に対する理解を深める。 ・相手の考えや立場を理解し認め合おうとする。 ・自他の考えを正しく理解し合い、望ましい人間関係を築こうとする。

各教科・領域等における国際理解・多文化共生教育の方針・重点

道徳	総合・特別活動	日本語指導
〈共通言語としての道徳〉 ・自国及び他国の文化を尊重し、公共の精神を重んじ、他者に共感する道徳的心情をはぐくむことで、グローバルな視点を持ち、国際社会において自ら責任と役割を果たすことのできる主体性のある児童の育成を図る。 *ローテーション道徳	「ふるさと二本木」 〈身近な地域への理解〉 ・自分の身近な地域を知るとともに、外国の文化に関心をもち、相互に理解しようとする態度を育てる。 *国際理解イベントの開催	〈日本語適応指導教室「ひまわり」を通して〉 ・日本語や日本の文化について理解を深め、すすんでコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。 *外国人スピーチコンテストへの参加 *日本語適応支援の充実 *N I E

各教科：国際理解・多文化共生の視点から、指導の重点化を図る